

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) N.M
所属 (School) 地域保健学域
総合リハビリテーション学類
作業療法学専攻
学年 (Grade) 1年
留学先 (Name of overseas institution)
ビクトリア大学語学研修
留学期間 (study abroad period)
2020/8/30~2020/9/25

留学レポート Study Abroad Report

こんにちは。この留学に参加した理由と、内容、そしてちょっとしたアドバイスをお伝えしようと思います。オンライン留学だったので写真を一枚しか用意できず、拙い文章ばかりになってしまいますが読んでいただければ幸いです。

理由1：英語に関してはいわゆる4技能、つまり読む力、聞く力、書く力、話す力なるものがあります。その中で、自分にとって特に不足していて、かつ日本にいながらには身に着けにくい、話す力と聞く力を向上させるために参加しました。

私は特に帰国子女というわけでもなく、今までに英語圏の国に行ったこともないので、英語を身に着ける機会といえば学校教育くらいです。あとは強いて言えば、吹き替えでない洋画を英語の字幕つきで時々見たり、Yahoo!UKの記事を拾い読みしたり、好きな英語圏出身の歌手の歌を聞いたりする程度に過ぎないのです。誰かネイティブの方とどうしても英語で話さなければならない訳でもなく、日本語のみで十二分に生きていけるので、私の勉強方法では話す力と聞く力がなかなか身につかないのです。

しかし、いきなり現地に飛び込んで英語に囲まれて四六時中過ごすのは大変なことだとは分かっていました。それなりに英語を使いながらも、ある程度は距離を取れるのがいいな、というのが本音でした。そういったプログラムに参加して、英語でのコミュニケーションに慣れてから渡航しようと考えたわけです。その点において、このプログラムは家にいながら受講できるので、授業の時は必死に回らぬ頭から英語をひねり出して、毎度周りの学生との差に落ち込み、その後は英語の記事を読んだりしながら日本語を使って暮らすことができるのです。英語を学ぶ上で常に緊張とストレスにさらされているのは私には身の丈に合わず、嫌になってしまうので、第一段階として英語と程よく触れるオンラインプログラムを利用することも一つの手だと思えます。

理由2：下世話な話になってしまいますが、経済的だったことも大きな理由です。

大学に入るまでも留学に参加する機会はある程度にありましたが、どれも非常に金銭的な負担が大きく、とても参加できませんでした。給付型奨学金を受給していることもあって、現地に渡航するのは難しいのが現状です。

このプログラムでは参加費用が大きく抑えられ、奨学金を利用すると本当に留学が身近なものになりえます。先ほども申し上げたように、オンラインプログラムには渡航と勝るとも劣らない大きな利点があります。にもかかわらず、経済的な負担が軽く済むのなら選択肢に入れてもいいと思うのです。

理由3：最初に Placement Test が行われ、テストの成績に応じてレベル1から5までのクラスに振り分けられます。

薄々お気づきになっていることかと存じますが、私は英語でのコミュニケーションが苦手です。それでも何とかしたいと思い、留学に参加したわけです。このなければの目的意識がくじかれないように、英語の学習の強度は適切であることが望ましいのです。クラス分けのない留学の場合、どういうわけか往々にして明らかに帰国子女と思われる方が大勢参加なさり、そういった方との差に絶望することになるので、それをバネにして伸びていかれる方ならば何も問題はないのですが、そういうわけではなかったためこのテストはそれなりに重要な意味を持つのです。(それでもクラスのなかで圧倒的に劣っていたのですが…。)

理由はこのくらいにして、内容をお伝えします。

このプログラムは非同期型授業と同期型授業の二つで構成されていました。良かったところも含めて申し上げます。

非同期型授業：Moodle を使って行われました。日本時間で火曜日から金曜日まで毎日課題が出されました。（ちょうど府大の講義型授業と同じような感じです。）そこでは日常会話で使う相槌などの表現や、語彙、文法事項などを動画やクイズで習得するほか、Forum 機能で先生が決めた議題について議論しました。一週間ごとにテーマ（例えば食べ物や健康等）が決まっており、それにちなんだ語彙や表現を習得し、それらを使って議論する形式でした。週の一番最後の日には議題を与えられてそれについてビデオを撮って投稿し、また、小論文を提出しました。

良かったところは、今まで全く知らなかった、でもとても自然な日常会話の表現を身に着けられることです。主な形式は動画を見るなり、音声を聞くなりした後に、クイズに答えるというものなのですが、音声や動画は何回も再生できるのでわかるまで聞いて、そして質問に備えることができました。対人では何十回も言い直してくれないのでこれはとてもありがたいことでした。これでも聞く力が上がったと思います。また、何回も聞くうちに表現などが染みつくわけです。三つ目に、課題に対する先生のフィードバックが丁寧だったことです。週の最後にビデオと小論文を提出するのですが、先生が評定を付けて下さりました。それが毎回の確で、今回の提出物の何が良くて、もっと良いものにするためには何が足りないのかを指摘して下さいました。これがないことには書く力や話す力は上がらなかったことでしょう。

同期型授業：Zoom を使って日本時間で火曜日から金曜日まで毎日午前9時から10時まで1時間の同期型の授業が行われました。議論が中心なのですが、主な質問は前日にメールで示されました。授業では一つ目に先生から議題（非同期型の授業と同じで週ごとにテーマが決まっており、非同期型の授業と対応していました。）に関する問一つを与えられ、選択肢の中で一つ選び、送信します。軽く挨拶したりもします。事務連絡も行われます。この時間は10分程度です。二つ目に Breakout room で3人から4人でメールで知らされた質問に沿って議論します。この時間は30分程度です。三つ目に Mein room で先ほどの議論について先生から質問され、詳細に答えます。先生からさらに深く聞かれ、戸惑うこともしばしばありました。他のグループの人の議論について質問したりもします。この時間は20分程度です。延長することもよくありました。

これとは別に、日本時間で毎週月曜日の午前10時から11時まで Café social という授業には含まれない、参加自由の教師・学生間交流の場が Zoom で設けられていました。必ずしも口頭で議論に参加する必要もなく、カメラや音声を切ってチャットで参加することもできました。そこでは一つ議題が設けられており、授業と同じように Breakout room で少人数で議論します。何回か部屋を移動させられ、違う人と話し合いました。先生と議論することもよくありました。Mein room に戻った後、先生や学生とどのようなことを話し合ったかを共有しました。

良かったところは、先生と学生のレベルが高いことです。学生は7割が日本出身ですが（残る3割に英語圏出身はいませんでしたが、彼らもとても英語が上手でした。）、私を除いてほぼ全員ものすごく英語が流暢で、おそらく帰国子女の方だと思われるのですが、何を考えて留学に参加したのだろう、参加する必要もないくらいではないか、とかもっと高度なレベルのプログラムもあったら、何もこれに参加することはないのではないかなどと毎度かなり劣等感に苛まれました。しかし、彼らの英語を必死に聞き、そして応えようとするので、かなり苦しかったし、恥ずかしくもあったのですが、自然と弱かった英語を聞く力、話す力が伸びました。また、彼らも私のたどたどしい英語に嫌な顔をする事なく、一生懸命に聞いて、ほかの学生にするようにきちんと返事をしてくださったことも大きいです。私のモチベーションがいつも刺激されました。もう少し私とほかの学生に英語力の開きが大きかったら、もはや少しも授業について行けなかったことでしょう。授業では学生と議論することが主で、先生の話だけをただ聞いているだけでは済まされないの、適切なクラスに配置されることは大切だと痛感しました。

最後にちょっとしたアドバイスを幾らかお伝えします。

1：留学することを決めた際は、英検や TOEIC, TOFLE など何かしら自身の英語力を証明するテストを受けておくことをお勧めします。

留学のプログラムを選ぶにあたって、そういった資格がない場合、かなり選択肢が狭まってしまうのです。（留学の参加条件に TOEIC〇〇点以上、といったことが記載されている場合がしょっちゅうあります。逆にそうしたことが求められていないプログラムは初心者も歓迎していると考えても良いのではないのでしょうか。）特にレベルの高いものに参加しようと考えているときはあきらめざるを得ない場合があります。ゆえに、なるべく早くそれらのテストを受験するのが良いと思います。また、何回か受験し、スコアが上がると、より高度なプログラムに参加できる可能性が広がります。

2：英語で気軽にコミュニケーションできる相手を探しておくことをお勧めします。

留学にも終わりはありません。また、いつでも参加できるとも限りません。そんな中で、せっかく身に着けた英語力を衰えさせないためにも、オンラインでもいいので英語で話し合える人を捕まえておくのが良いかと思います。残念ながら私はまだ見つけられていないのですが、もしそういったことができそうな環境であるのなら、是非とも交流してみると英語に関してもそうでなくとも新たな知見が得られるかもしれません。

3. 留学に関する情報には常に聞き耳を立てておくことをお勧めします。

ポータルサイトのお知らせの欄に国際交流グループから留学に関する耳寄りな情報がよく載せられます。それでもポータルには毎日たくさんの情報が載せられ、埋もれてしまう可能性があります。国際交流グループのメール登録をしておくで見逃さずに済みます。

最後まで読んでくださり、本当にありがとうございました。皆さんの留学が良いものになることを願います。